

「八禄荘―はちろくそう―」

某県某所にある高級邸宅街。

地主とその親戚のみが居住を許されている。

その他は厳正な審査を通過した外部の富裕層で

その人間らも、居住ではなく別荘を持つことのみ可能。

24時間 警察の巡回が定期的であり、防犯面は安心。

八禄荘で産まれた子供は、学校へは行かない。

親が雇った家庭教師等から英才教育を受けていく。

男子は16歳になれば社会化の一環として

自由に進学して八禄荘を出ることが出来る。

女子は16歳になると、親の決めた相手と婚姻することが
通例である。



私の
可愛い
紫へ

十四歳の
誕生日
おめでとう



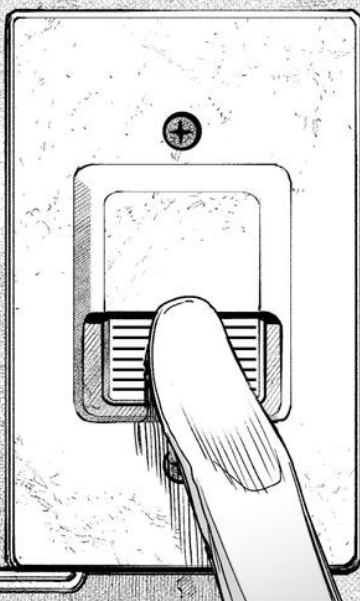
春に手紙で
貰った
学校の件ですが



お父様は
御多忙ですから

お
お
お

まだお返事は
頂いて
おりません



けれど

幸運なことに
お父様の知り合いの
ご令息から

とても
経験豊富な方ですし
有名な大学で教鞭を
執られておられるから

有名
あなた
次

あなたの
良き先生になって
くれるでしょう

教師
経験豊富な方ですし
有名大学で教鞭を執ら
れておられるから

次に
会う時には

誕生日だって
ひと月も
前のことだし！

家庭教師と
学校とじゃ
全然違うじゃない！

きっと素敵な
女性として
成長なさいね

あなたの
家庭教師をしたいと
申し出が御座いました



今出ます

がさ



!

ぞろぞろ

母より——



カ

……えっ

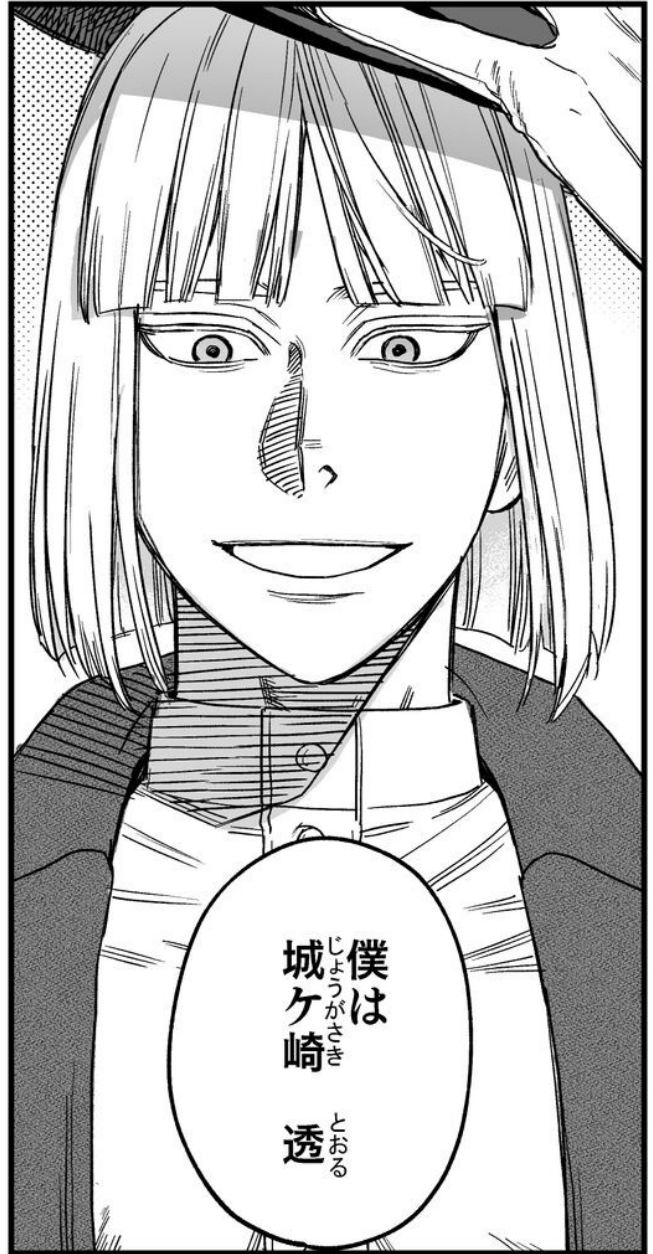
鍵……

はじめまして
西妻 紫さん

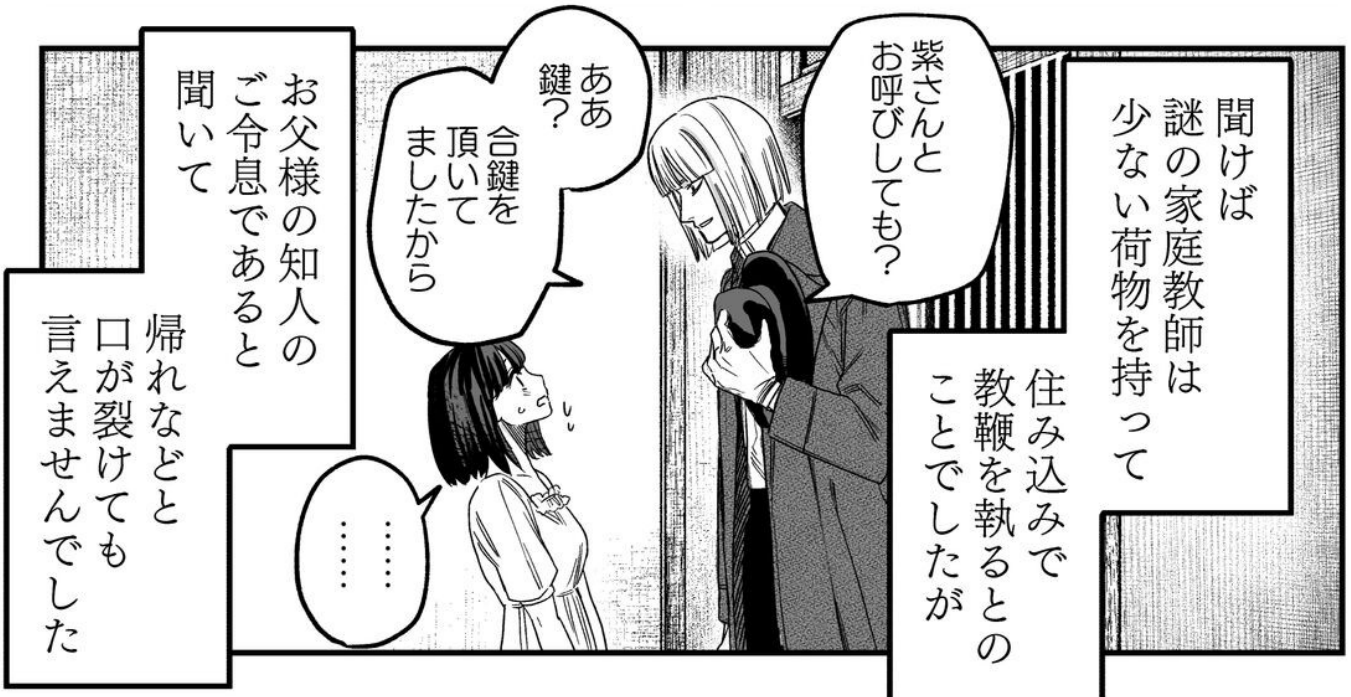
カ



今日から
あなたの
家庭教師です



僕は
じょうがさき
城ヶ崎
とおる
透



聞けば
謎の家庭教師は
少ない荷物を持って

住み込みで
教鞭を執るとの
ことでしたが

紫さんと
お呼びしても?

ああ
鍵?

合鍵を
頂いて
ましたから

お父様の知人の
ご令息であると
聞いて

……
……
……

帰れなどと
口が裂けても
言えませんでした

それから

季節はすっかり
夏に近づきました

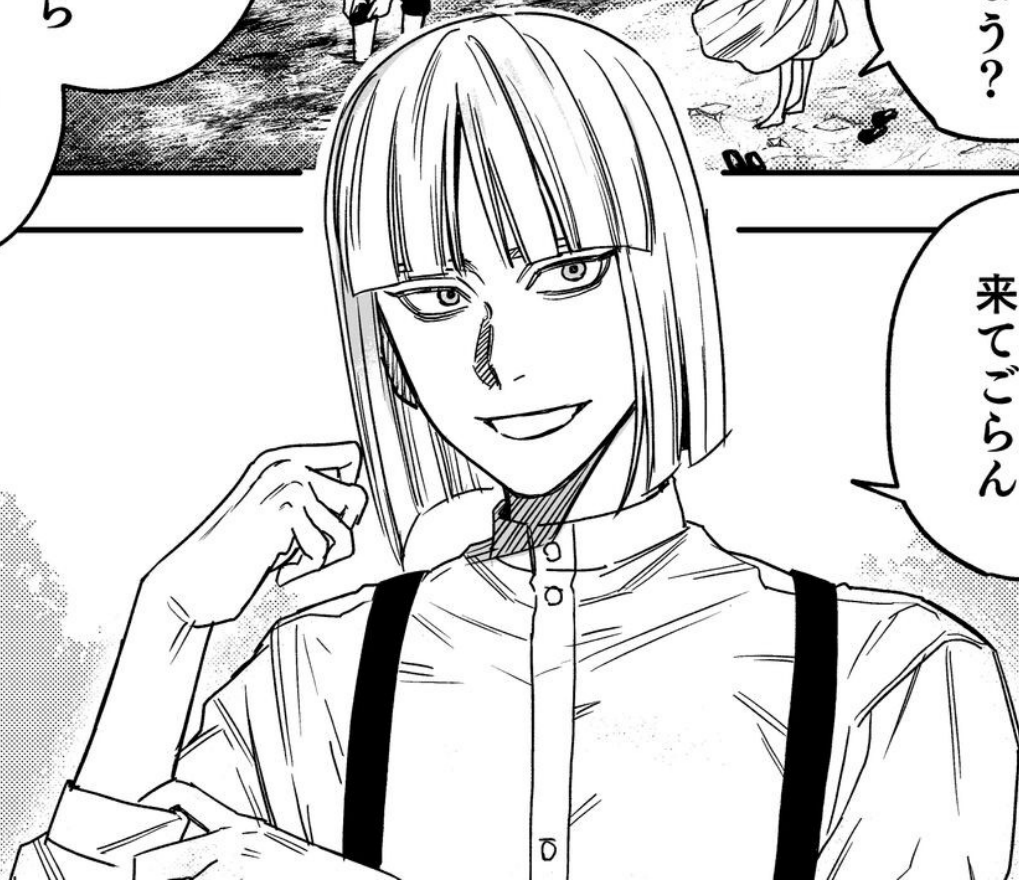
透先生！

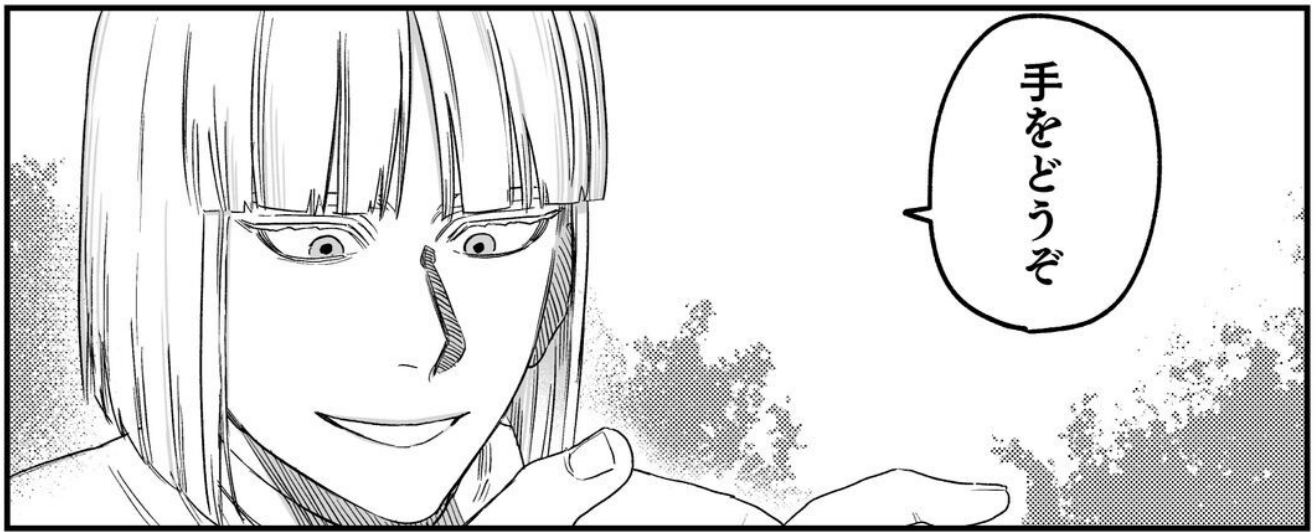
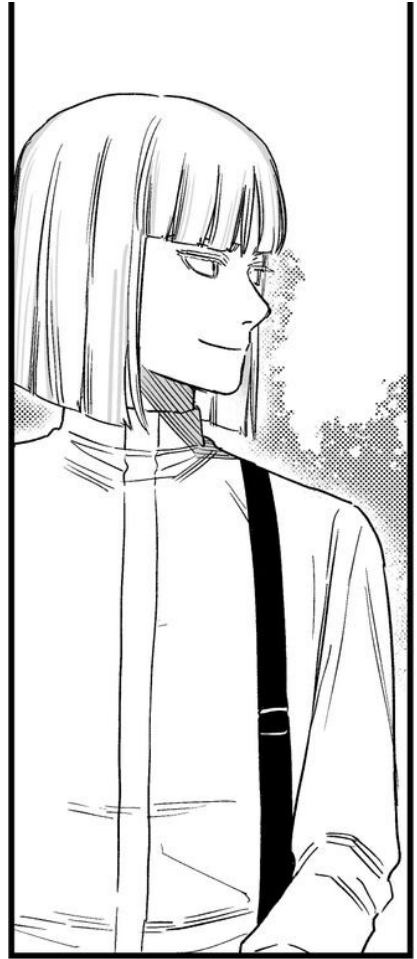
川の水はまだ
冷たいでしょう？

どうだろう
今日は幾分か
暖かいですから

気持ち
いいよ

紫さんも
来てごらん







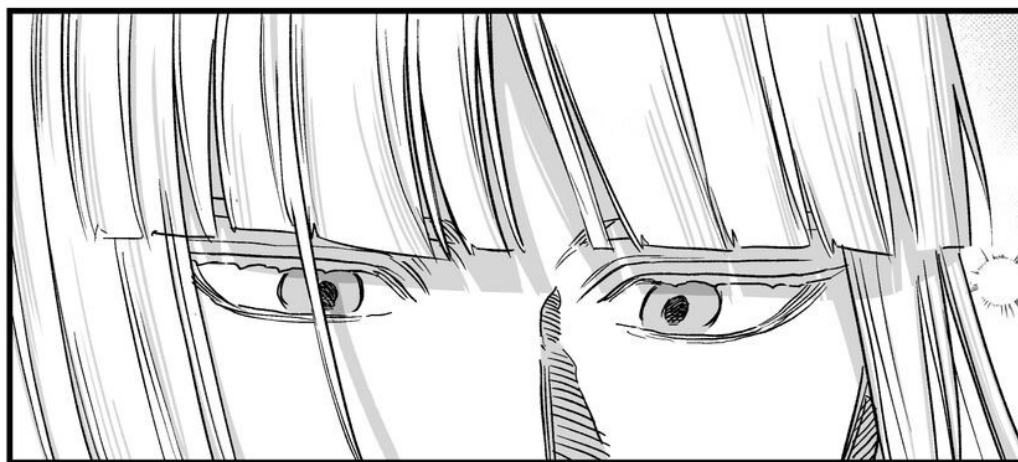
おっと…
風が強くなって
きましたね

はい…
しぶきが…

わっ

さっし
気を付けて

カッ
ッ



透先生は
肩書に負けない
素晴らしい
家庭教師です

父や母が
学校の代わりだと
彼を紹介してきた事も
納得いくほどでした



先に我慢の
限界が来たのは
私の方でした

先生：
私通学の許可は
いつ頂けると
思いますか？

紫さんの
ご両親が
お決めに
なること
だからね

透先生は
何か聞いて
いませんか？

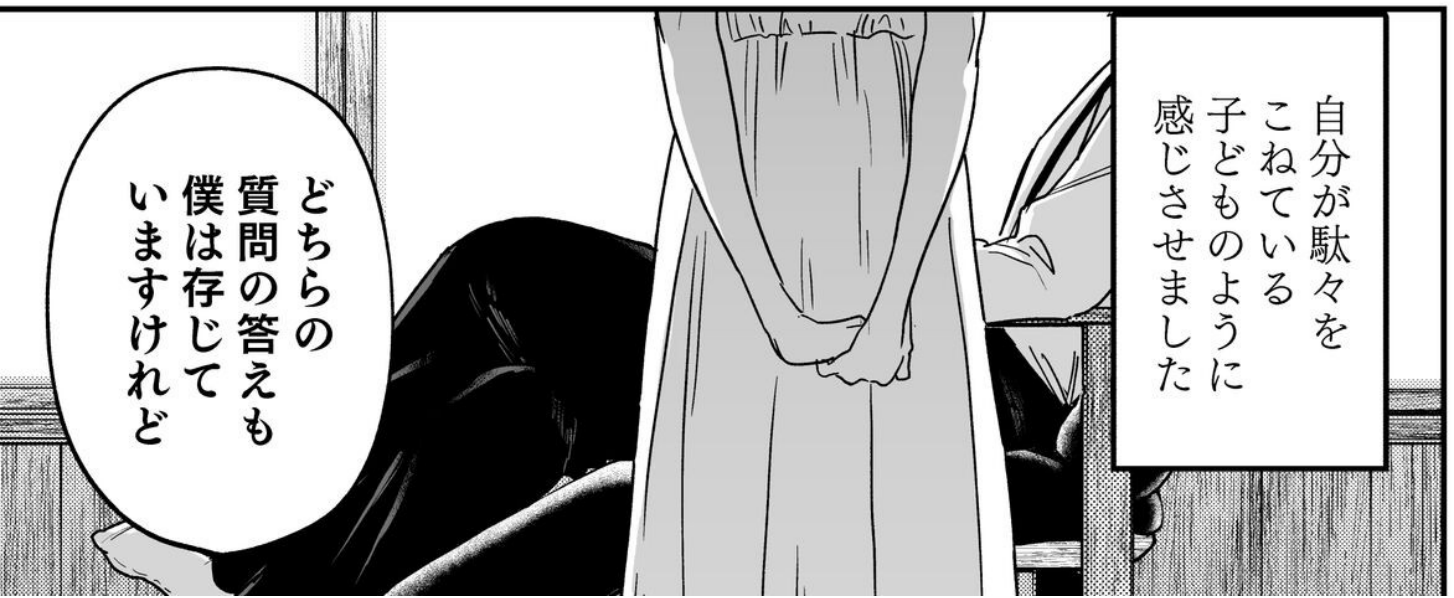
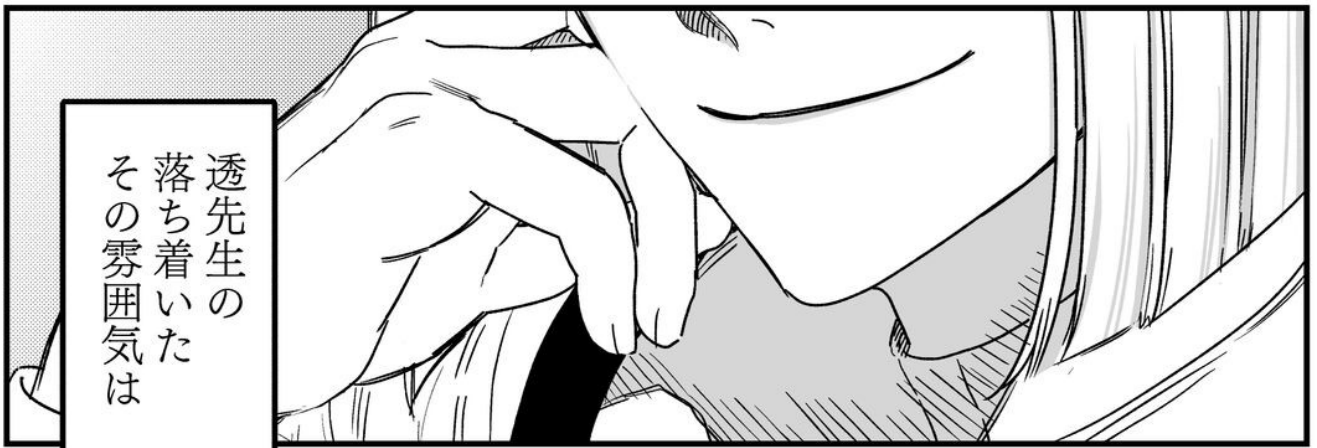
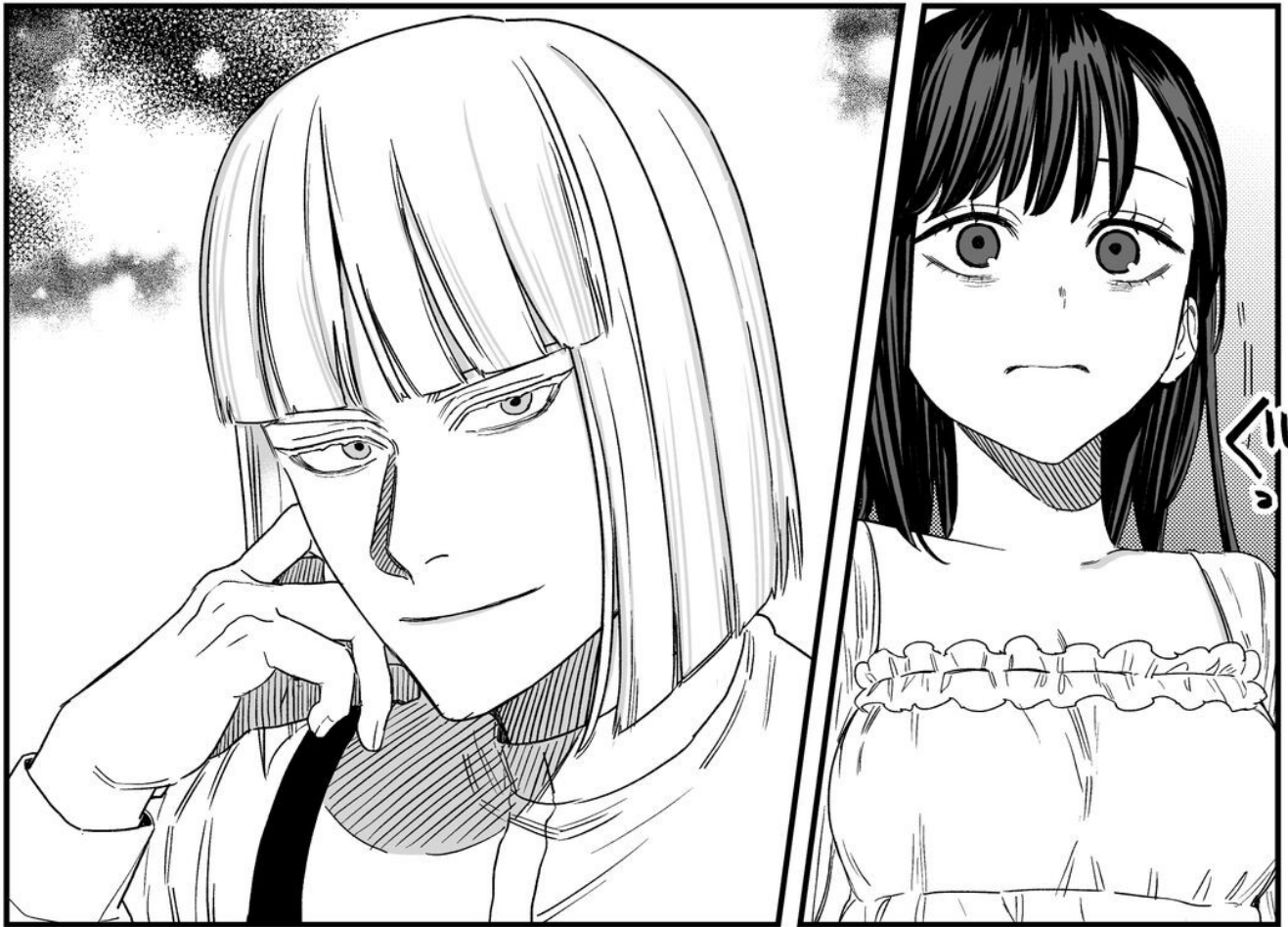
本当に私の
家庭教師
だけなのですか？

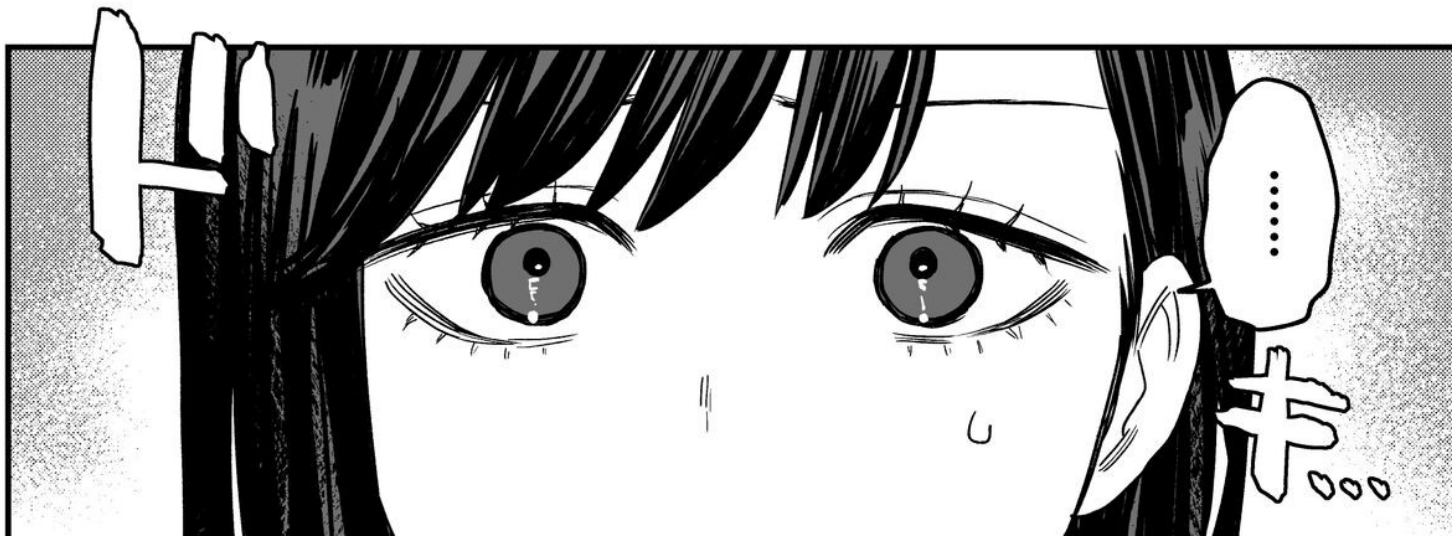
さあ…

…

…
…

今日の紫さんは
質問が多いね





私の何を
知りたいん
ですか？

……
では

風呂の後にでも
話しましょうか

つまり

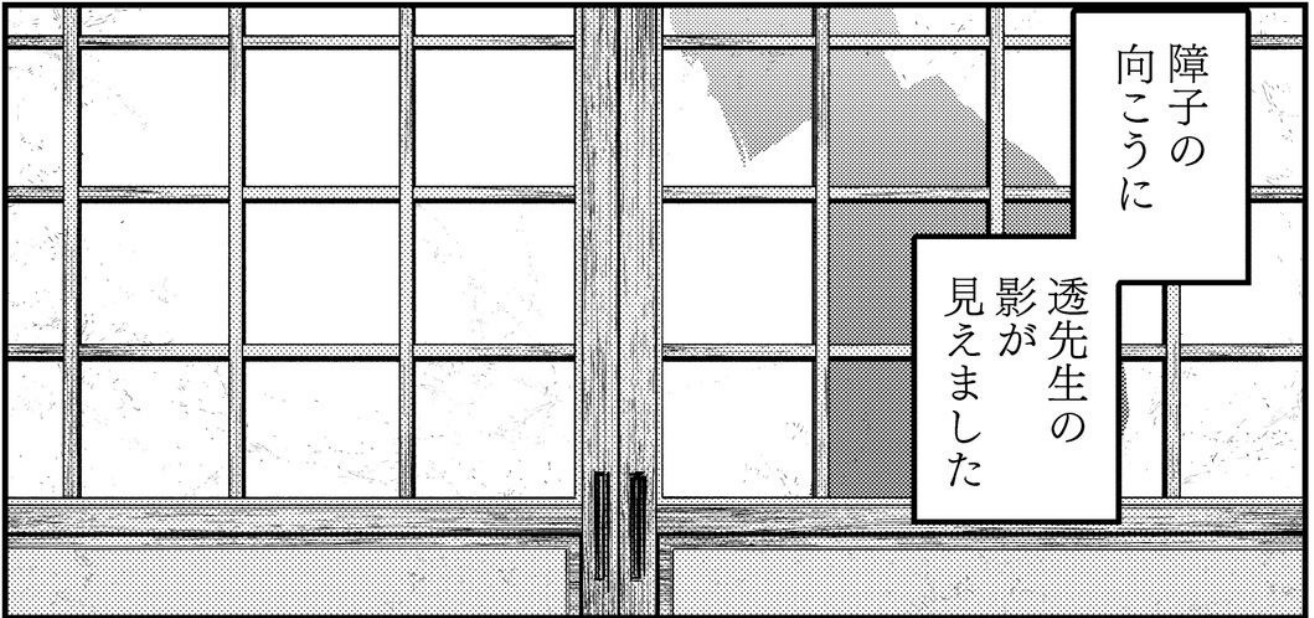
私の部屋に
彼を
迎え入れる……

なんだか

いけないこと
のような
気がしました

私は入浴後
自室から出ては
いけない決まりです

きゅん……





きみん

紫さん
これを開けて
僕を許したとき

起こることは
『結果』に
すぎないのだよ



きみの
何かが
失われるわけ
ではない

ただ
少し
大人に
なるだけ

きみん

透先生の
甘い言葉に

得体のしれない
不安から
急に恐ろしく
なりました

今思えば
戸惑い
だったのかも
しれません

けれど

私は障子の先を
確認することが
出来ませんでした



紫さん

ひゃ!



気まずい
なあ……



おはよう

と
透先生



なんですか？

そうだ
朝食の
前に

透先生は
いつも通り
でした



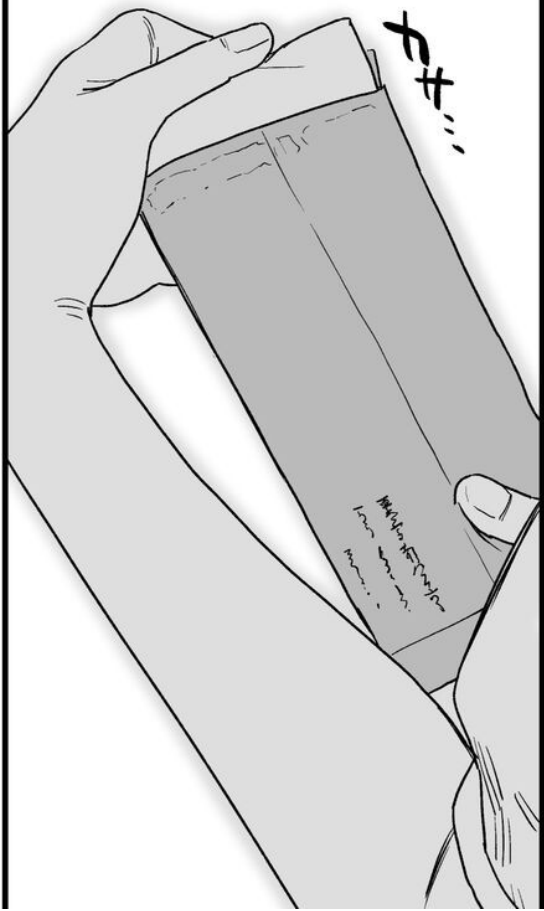
良い報せだと
いいけれど

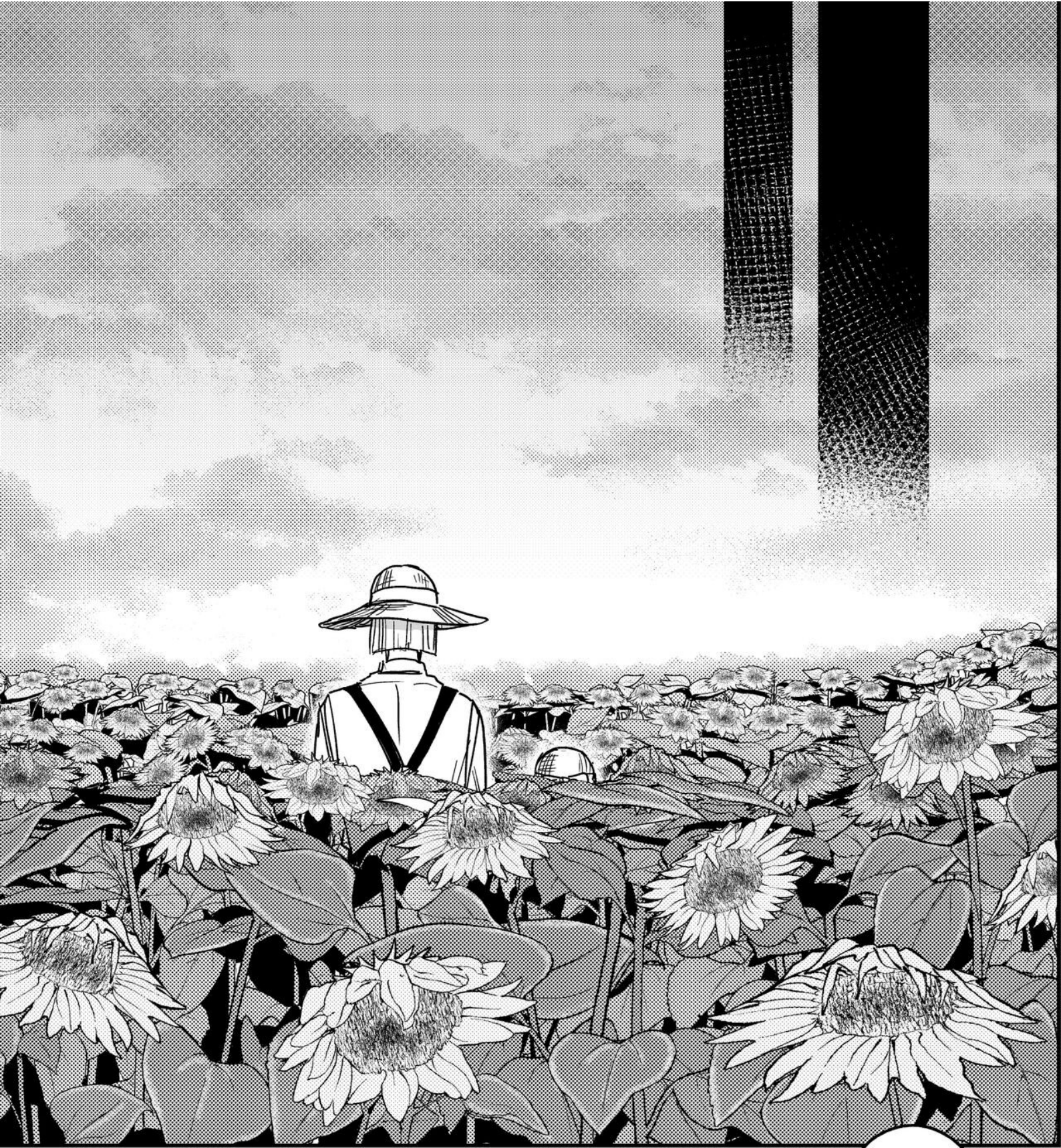


ほあ

あ……!

ご両親からの
手紙を預かって
いるよ





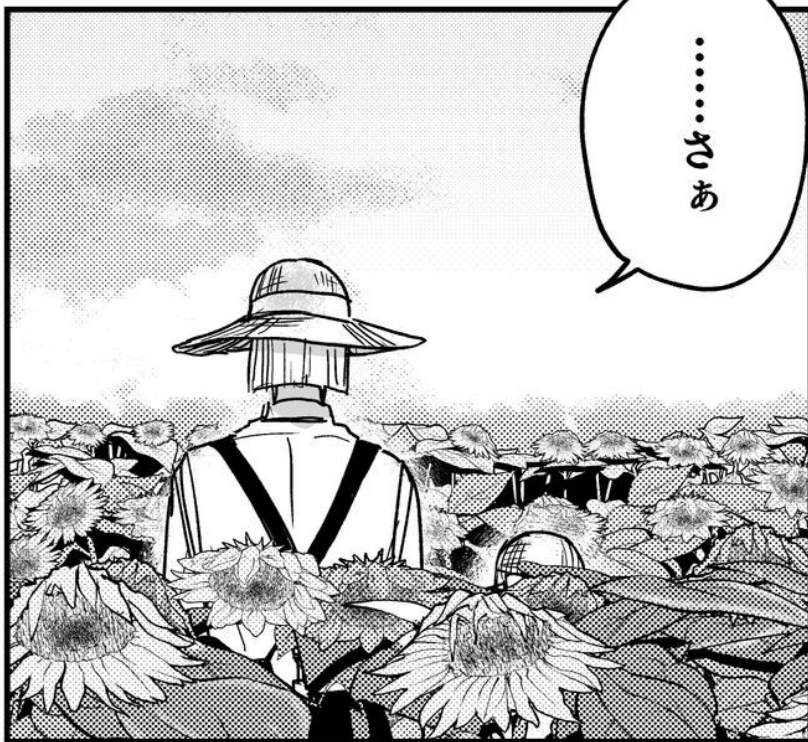
ひまわりたちも
俯いているね



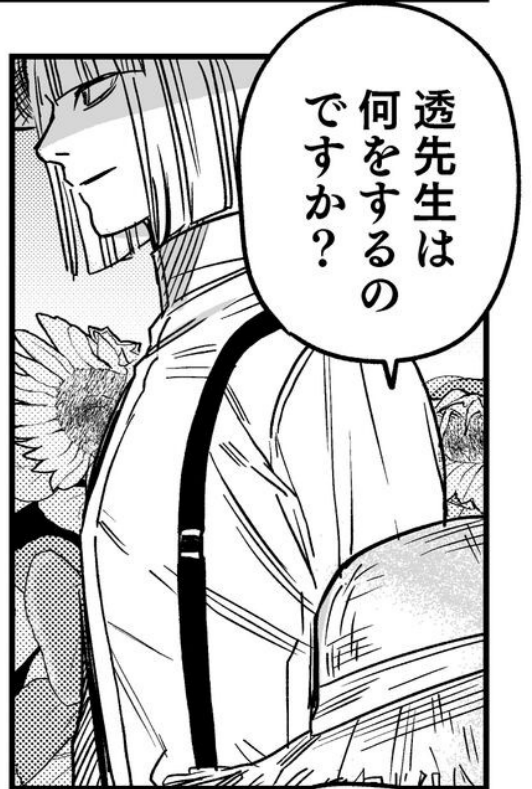
曇りだから



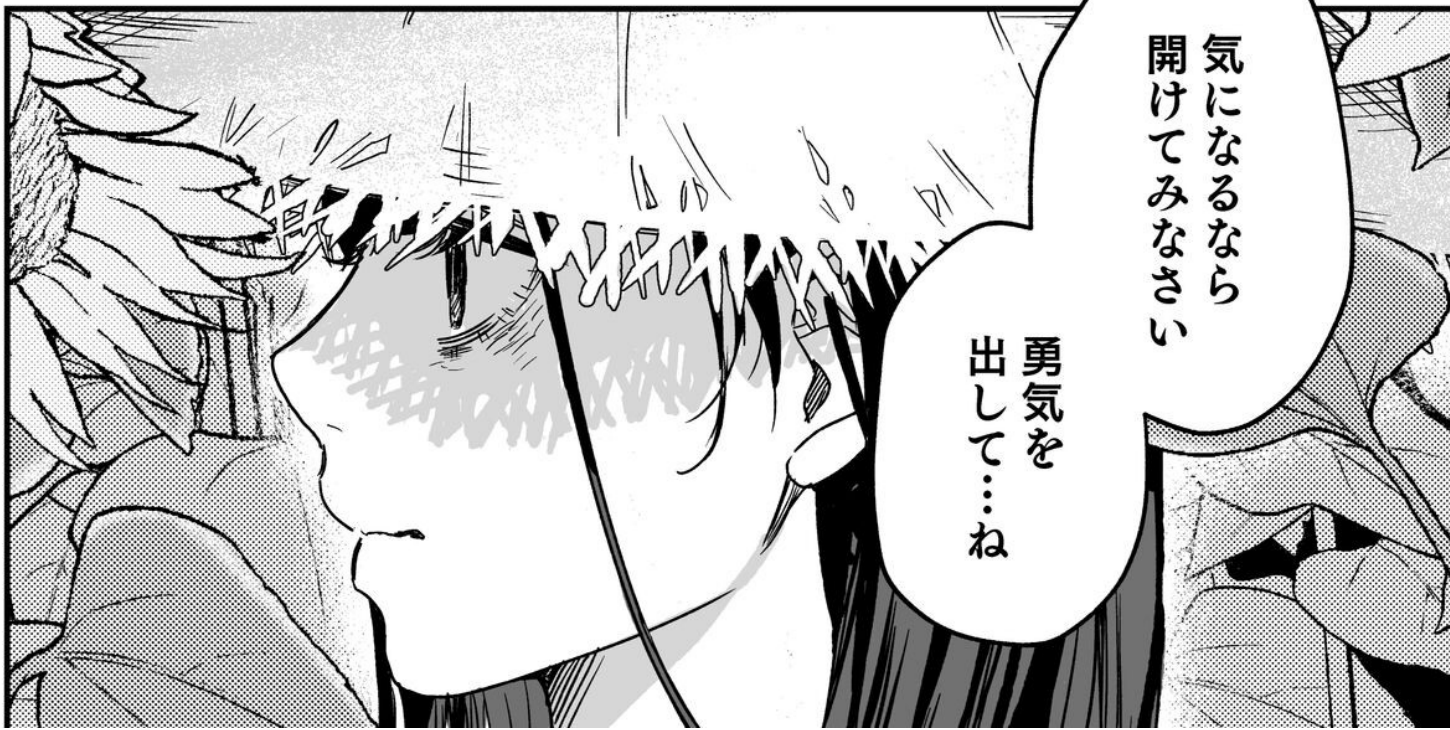
障子を
開けたら…



……さあ

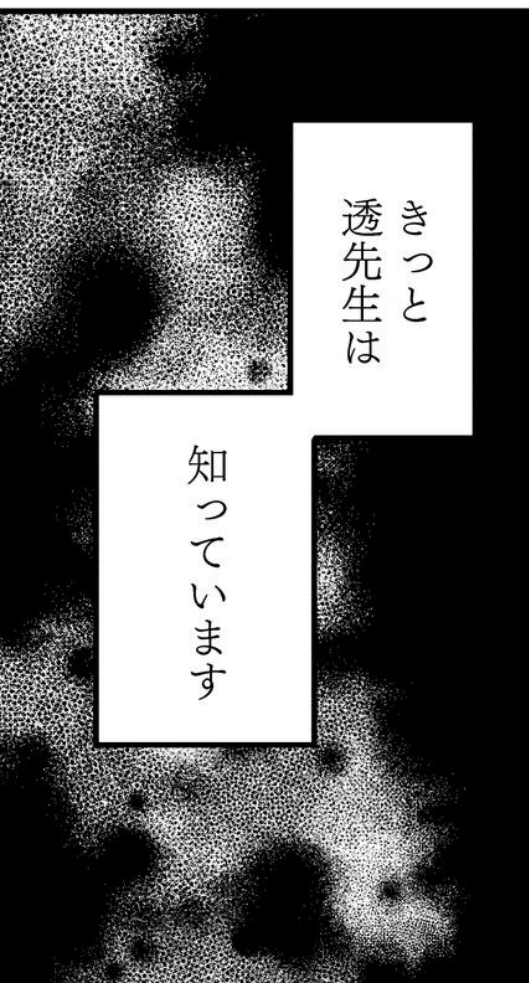
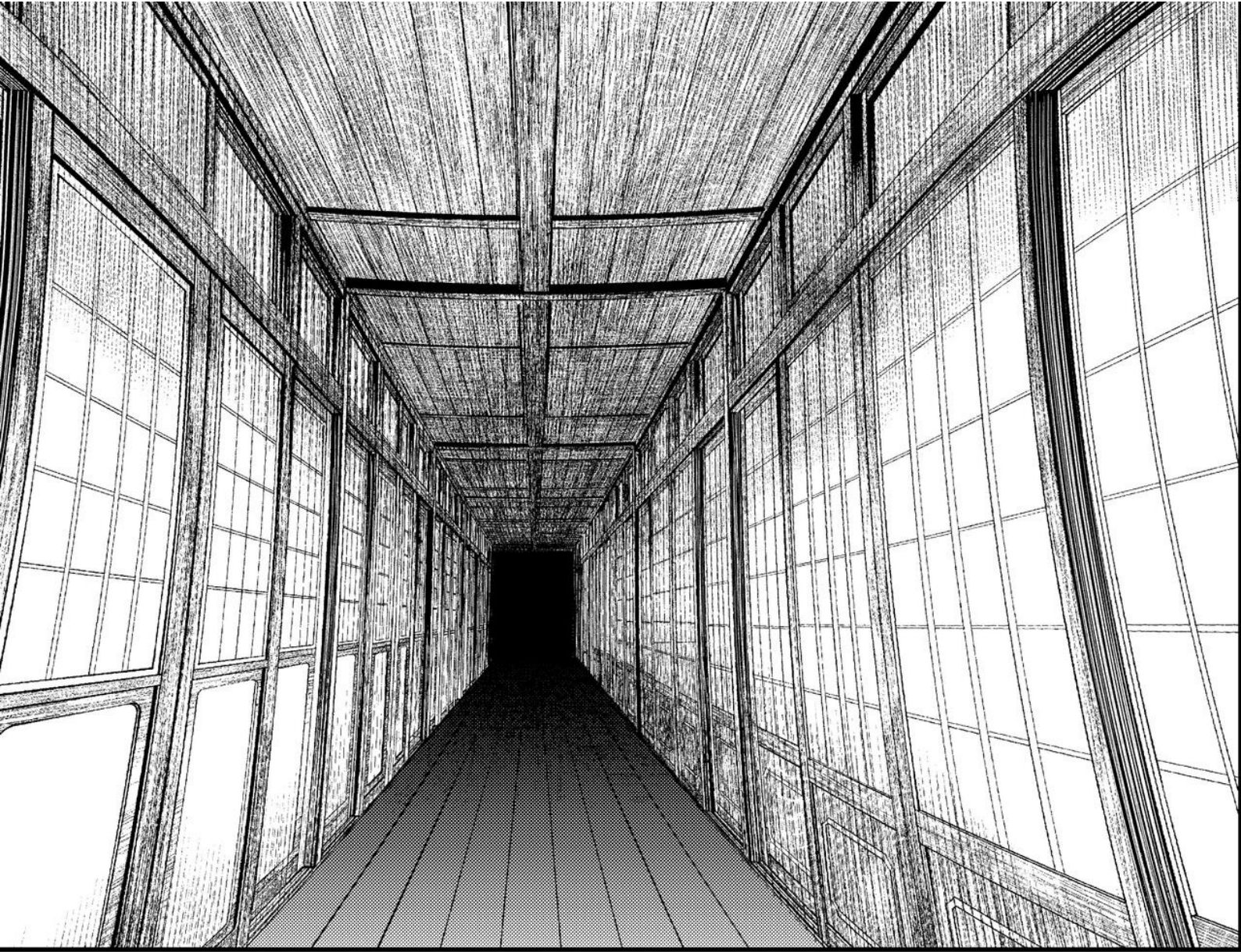


透先生は
何を
するの
ですか？



勇気を
出して…ね

気になるなら
開けてみなさい

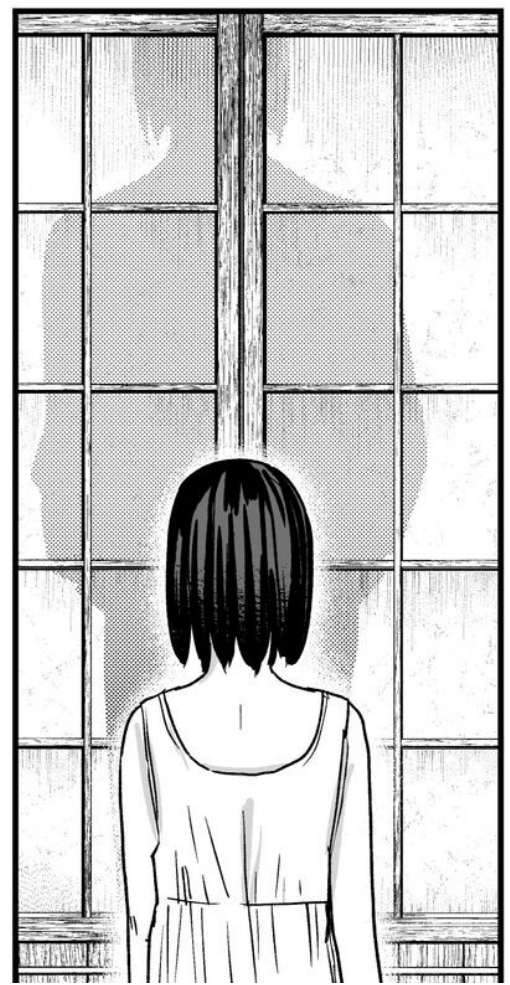


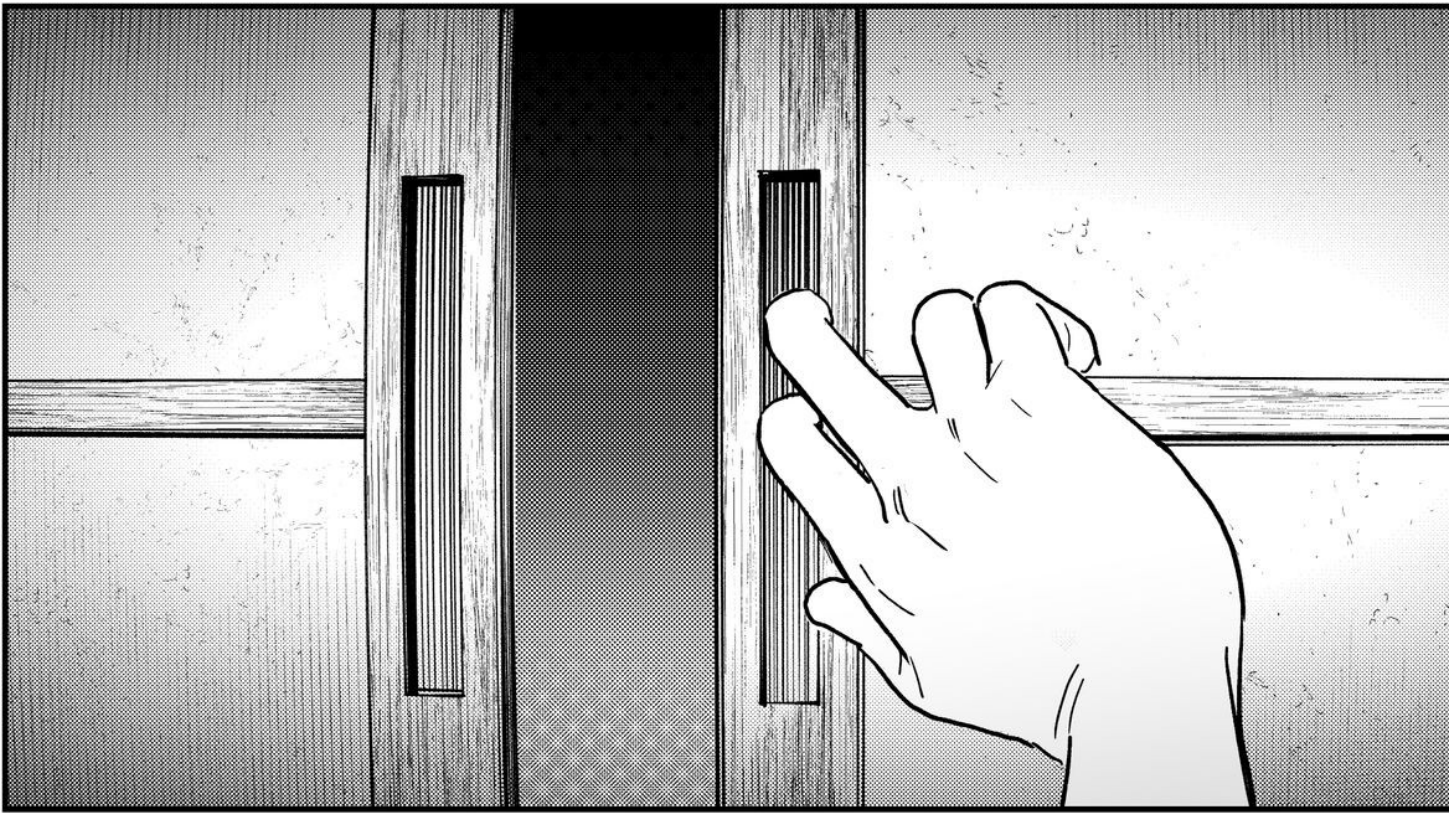
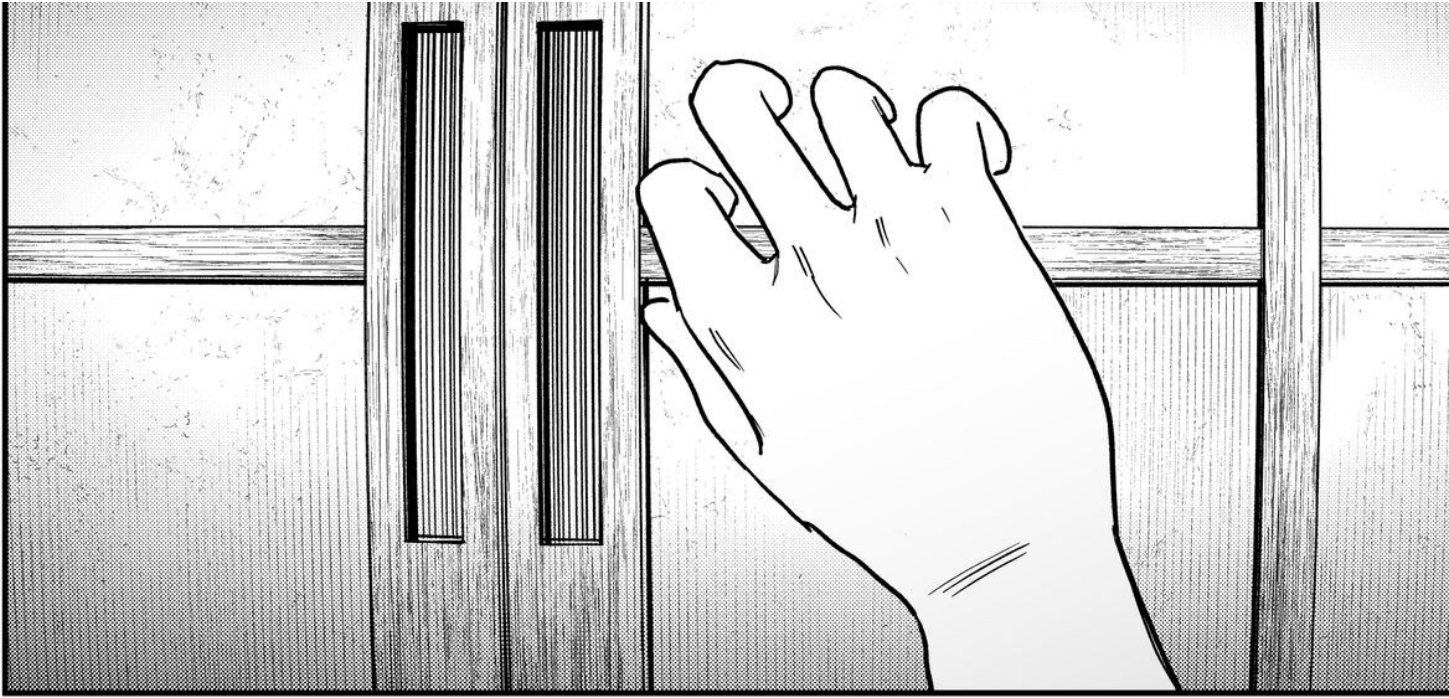
きつと
透先生は

知っています



私が何を
怖がっているのか



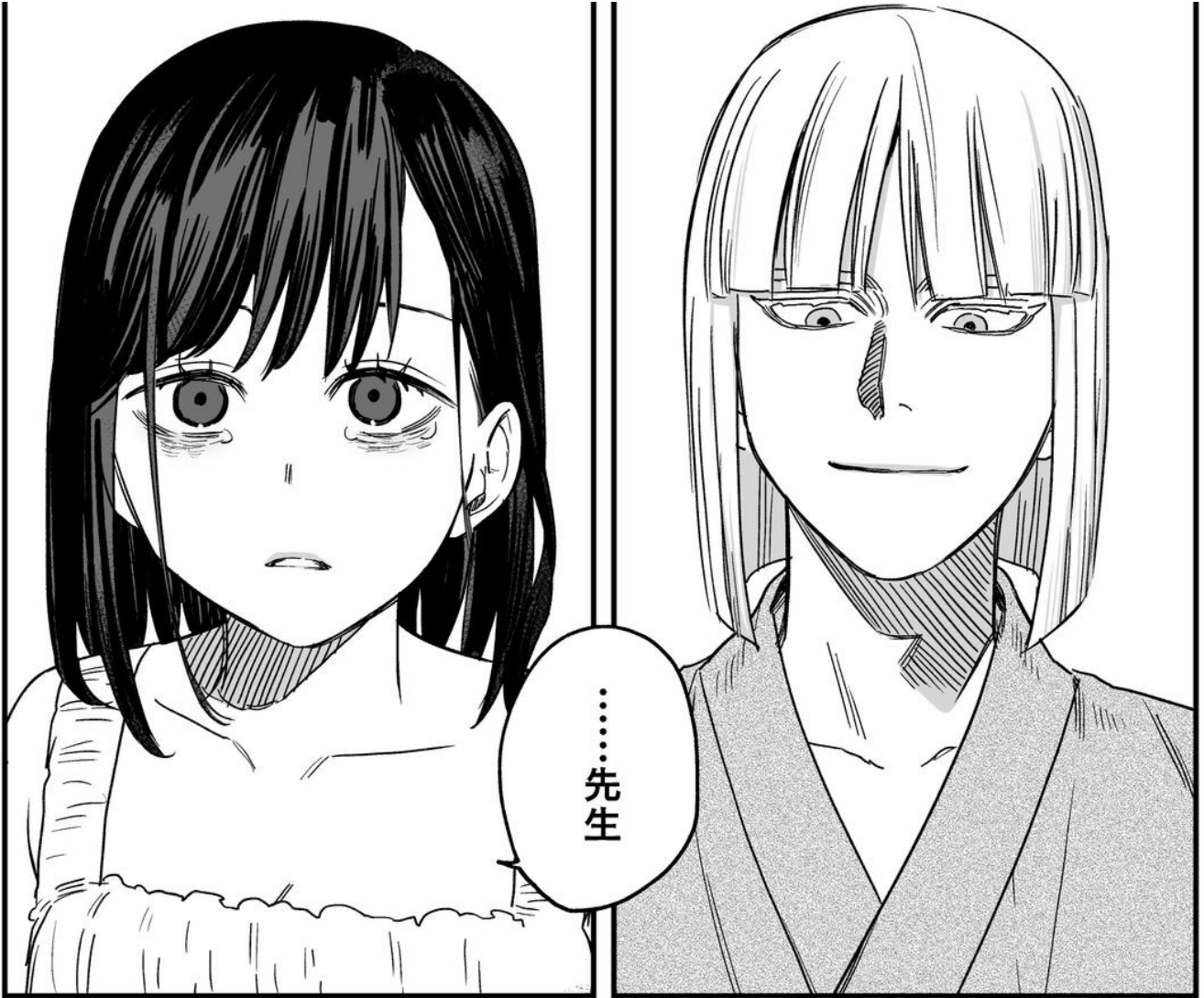




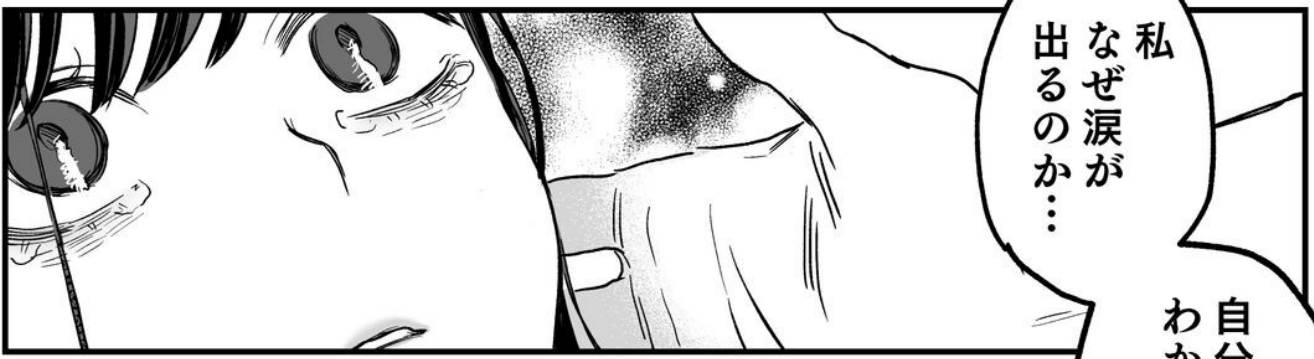
透先生でした

い・つ・も・通・り・の

そこに
居たのは



先生



私なぜ涙が出るのか...




自分でもわからないの...

す...



おとな
先生なら
わかるの
かしら……



頑張ったね

力強く
暖かい
抱擁は

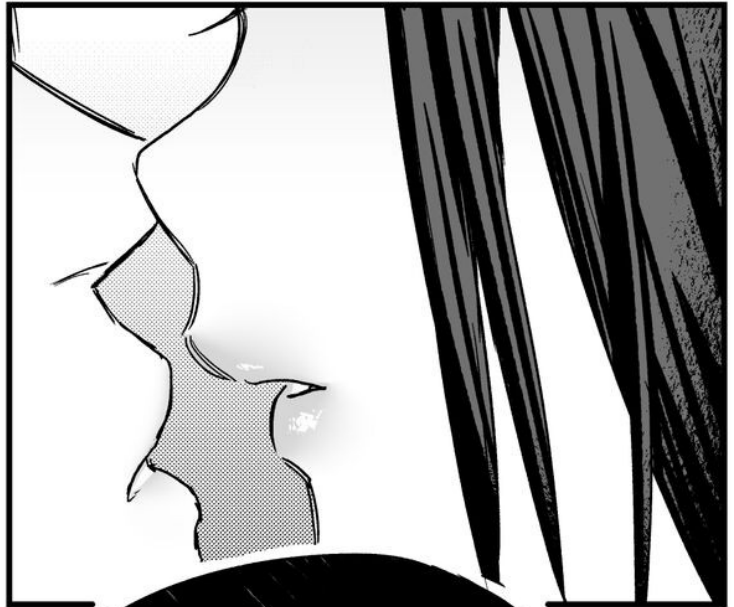
きみは
よく
頑張った

今の私に
足りないもの
でした



紫……

キウ……



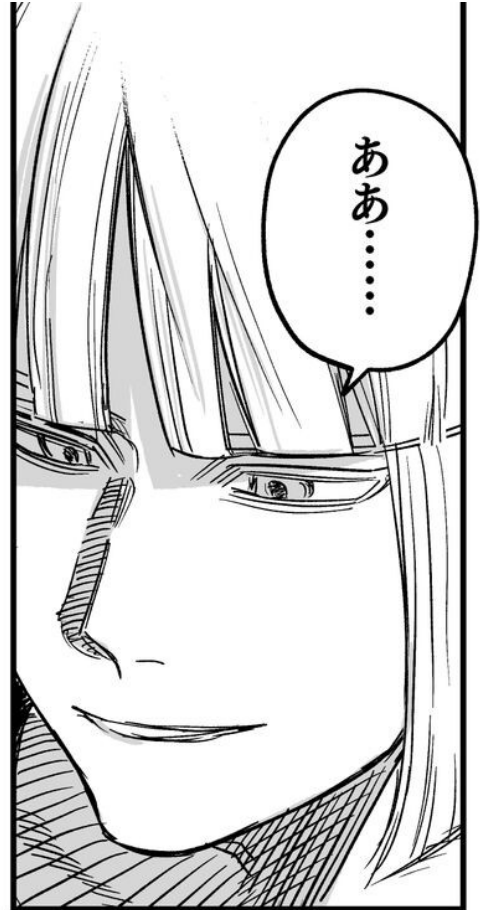
全部とけて
まざりあえば
良いのに

透先生と
私が『いっしょ』に
なってしまうくらい



勿論だよ

僕の紫



ああ……




瞬間の
ことは覚えて
いません

昼に見た
雲った空と
俯いたひまわりを
鮮明に思い出して
寂しくなつて

透先生にもっと
くっつけば
じんわりと
胸が熱くなるよう
でした





透先生
私の夢の話よ

いつか
家を出て
東京へ行くの

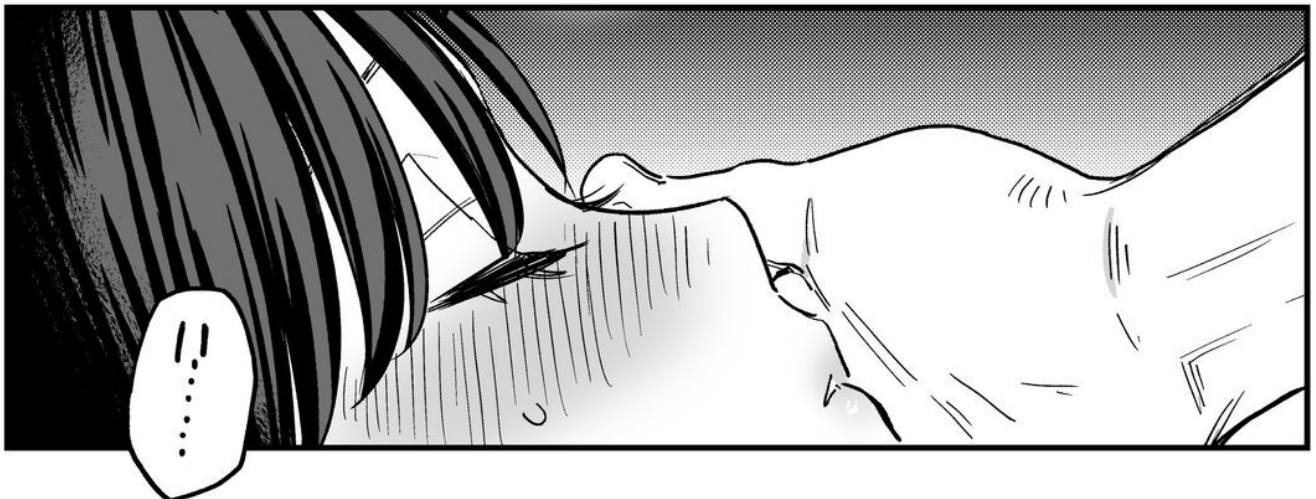
母は三鷹に
住んでいたん
ですって

大きな公園が
近くにあつて
私の好きなアニメの
美術館もあるって

私はまだ
子どもだから…
いつか……

学校へ行つて
友達が出来たら
そんな場所へ
一緒に行きたい

いつか……



……スル

道は僕が
いくつだって
示してあげるさ

……あの時
僕を連れ出して
くれたのは
きみだから

紫

どんな手を
使っても

きみを
幸せにするよ

それから私と
透先生の関係は
少し変わりました

透先生

おはよう
紫さん

あ…
あの

今日も
お話…

来て
くださる
かしら…

勿論だよ

僕の紫



ゆっくり
何度も

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

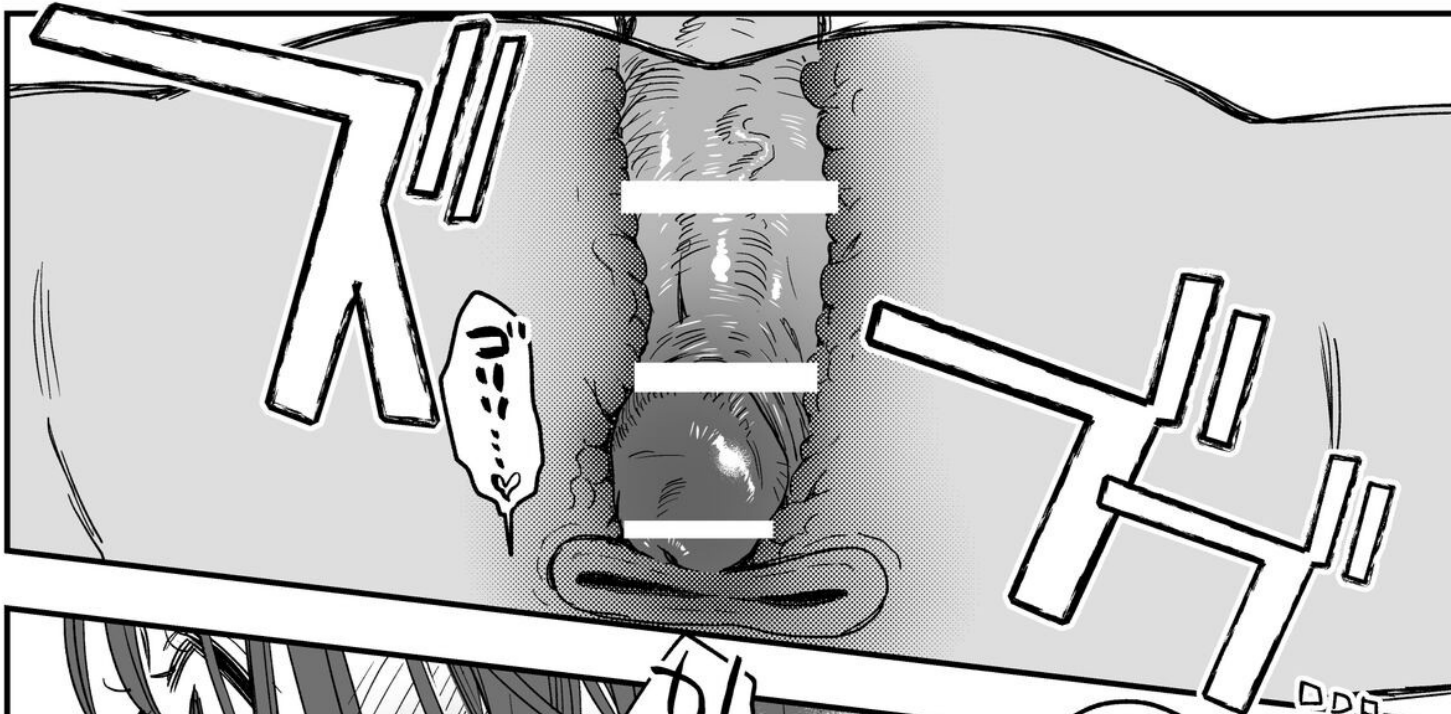
ちゅちゅ

ちゅちゅ

かきませ
られると...

ちゅちゅ

最初は
苦しかった
のに.....



これ……っ

これも
勉強と
思いなさい

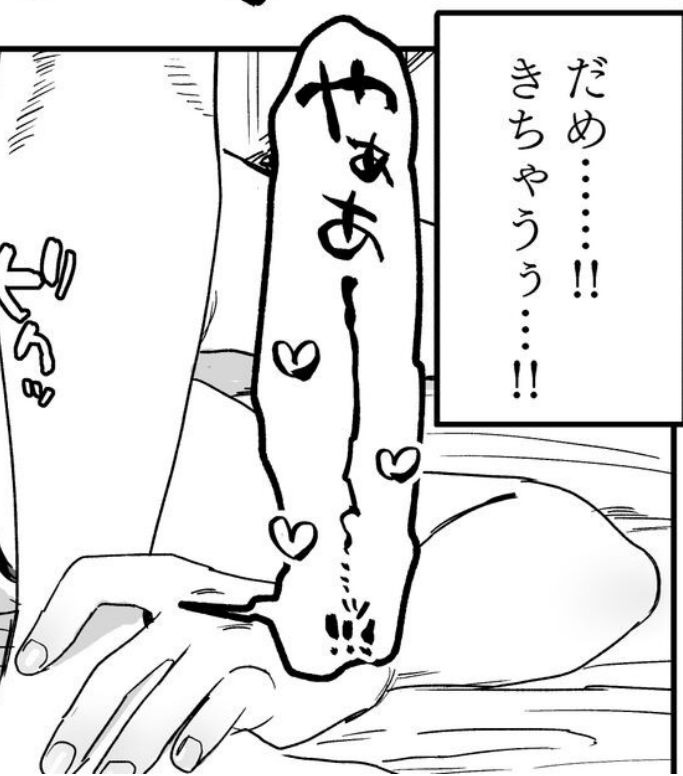
きみと僕が
もっと深く
交わるための…

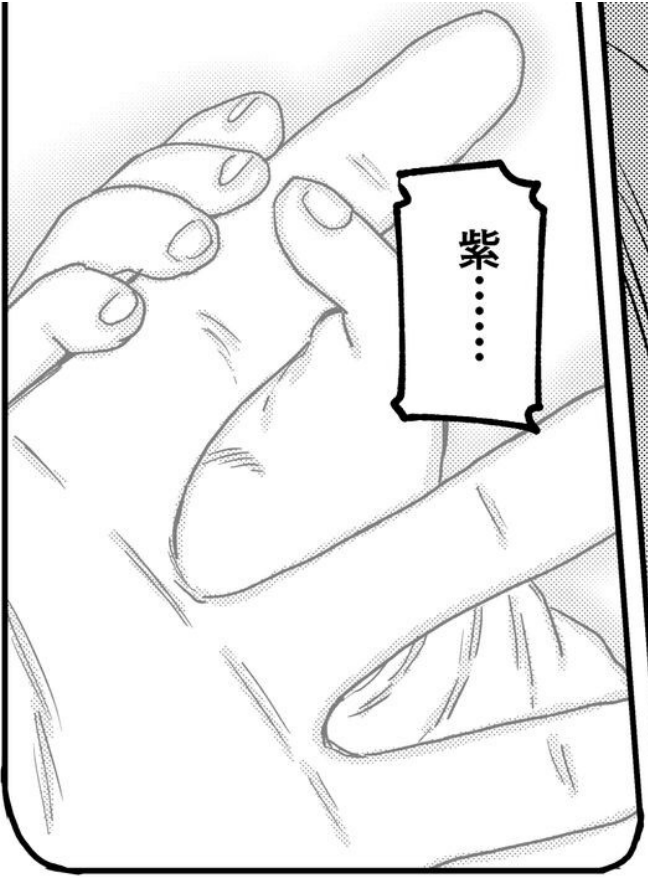
先っぽが……
私の敏感な
ところを……

ずつと……
くっくっく……

だめ……!!
きちやうう……!!

ああーっ





紫……



僕の……

紫……



おはは

おはは



おはは

おはは

おはは

おはは

おはは

おはは

おはは

おはは

おはは





透先生……

大好き……

とっ



はあ

は……

好きよ……

とっ
はあ



はあ……

とっ
ん

また紫に
会いに来て
くださったの？

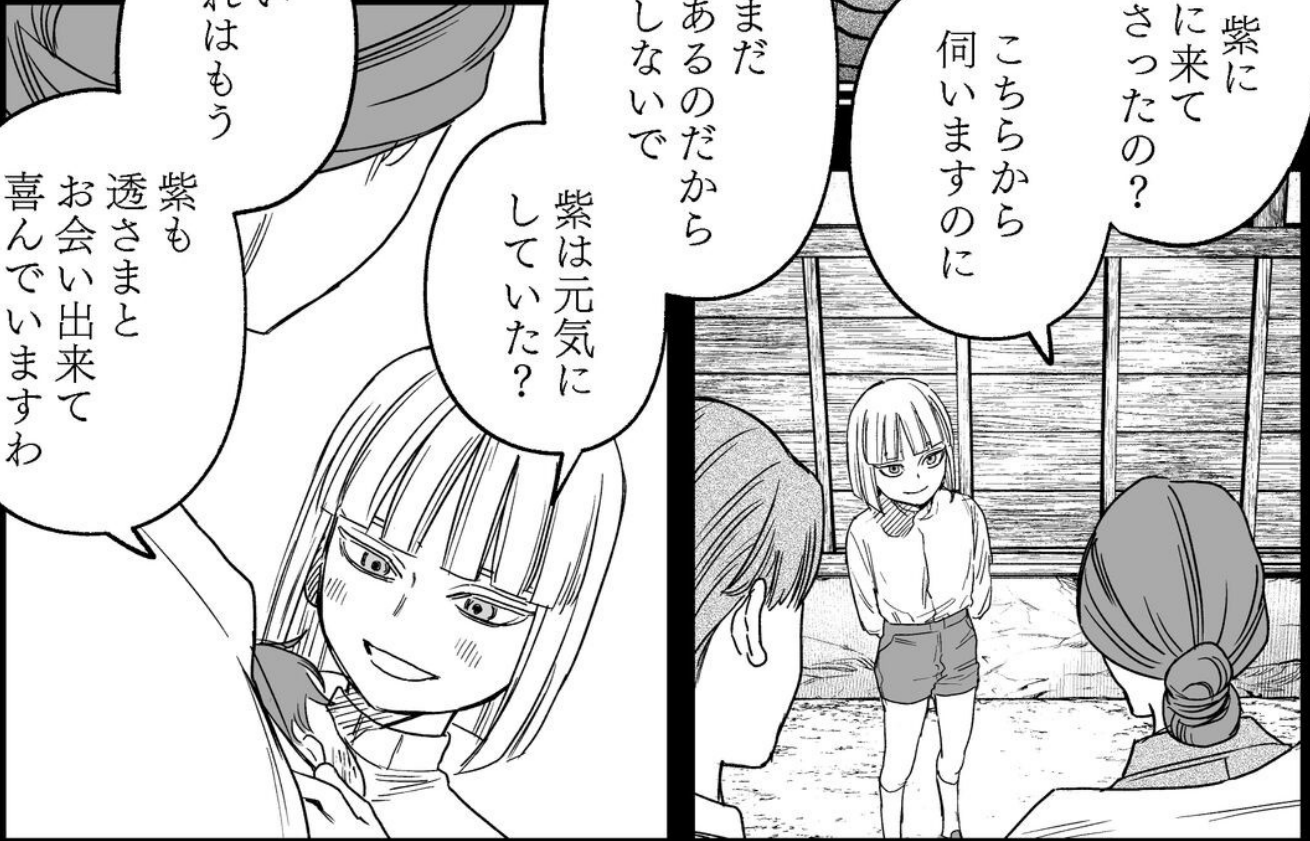
こちらから
伺いますのに

君はまだ
障りあるのだから
気にしないで

紫は元気に
していた？

はい
それはもう

紫も
透さまと
お会い出来て
喜んでいますわ



透さまは
紫に
ご執心だな

紫を将来
迎えたいと
仰って
いましたよ

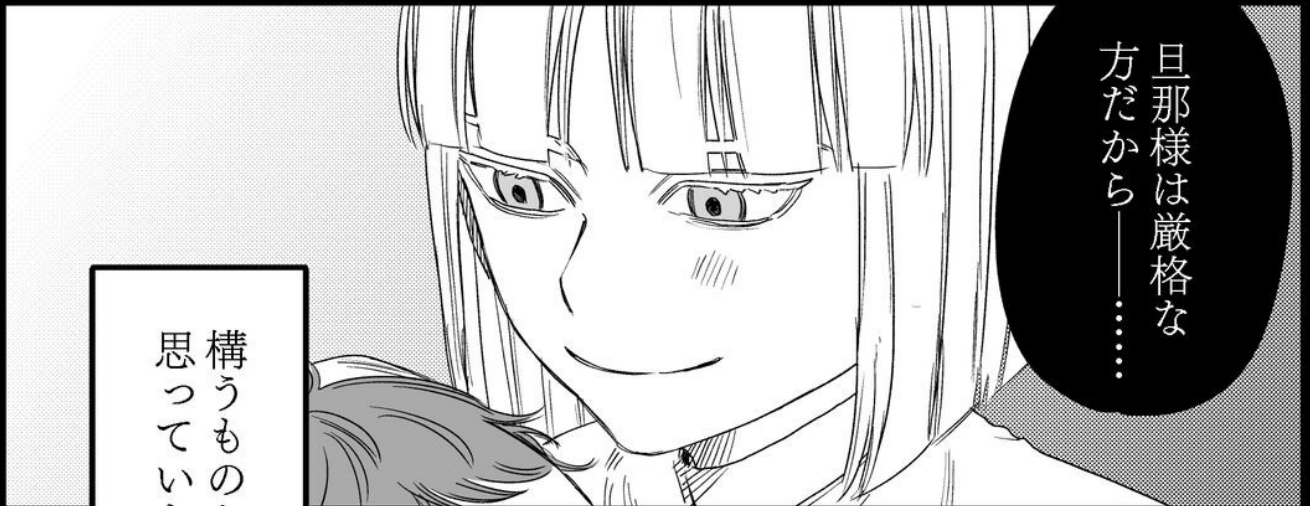
冗談でも
旦那さまに
言えないな


透さまのお家柄と
うちじゃあ
そもそもが
釣り合わないさ



旦那様は厳格な
方だから……

構うものかと
思っていた





その時はね

しかし
家の事情とは
案外難しいものさ

僕がそれを知るのは
あと数年ほど
経ってからだった

西妻家は
許さん

大した教育も
されていない
卑しい家系だ

それに
あそこの娘なぞ
両親からも
見放されているだろう

……提案が
あります

彼女が
十六に
なるまでに

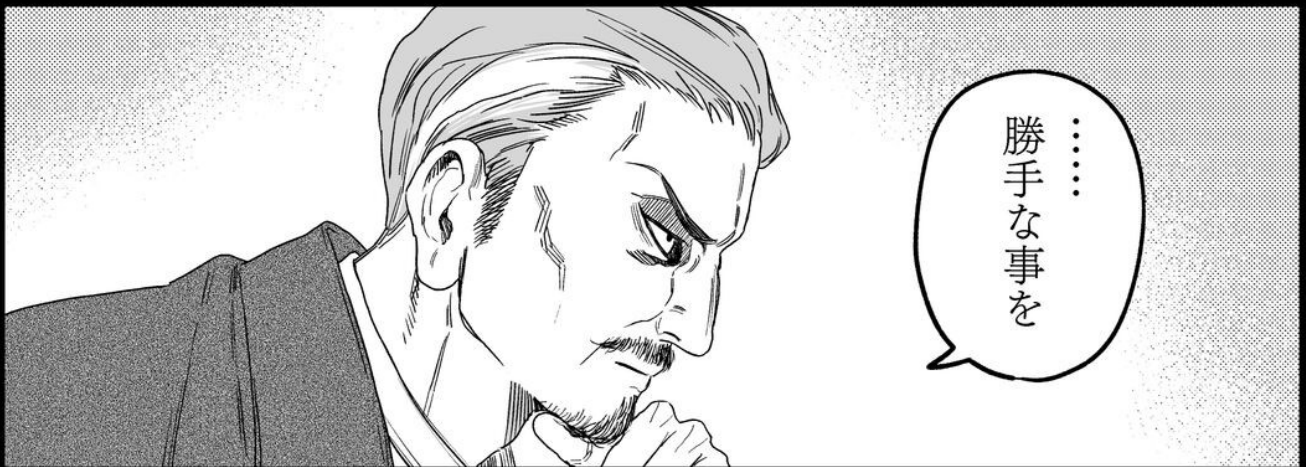
この
城ヶ崎透が

身も心も
城ヶ崎家に
ふさわしい
女性へ育てる



父上

ご決断は
そのあとでも
良いでしょう

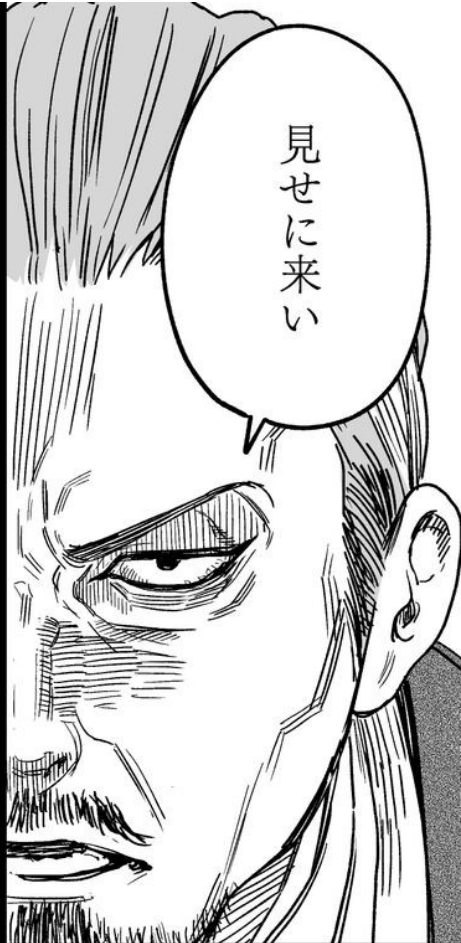


……
勝手な事を




……
二年後

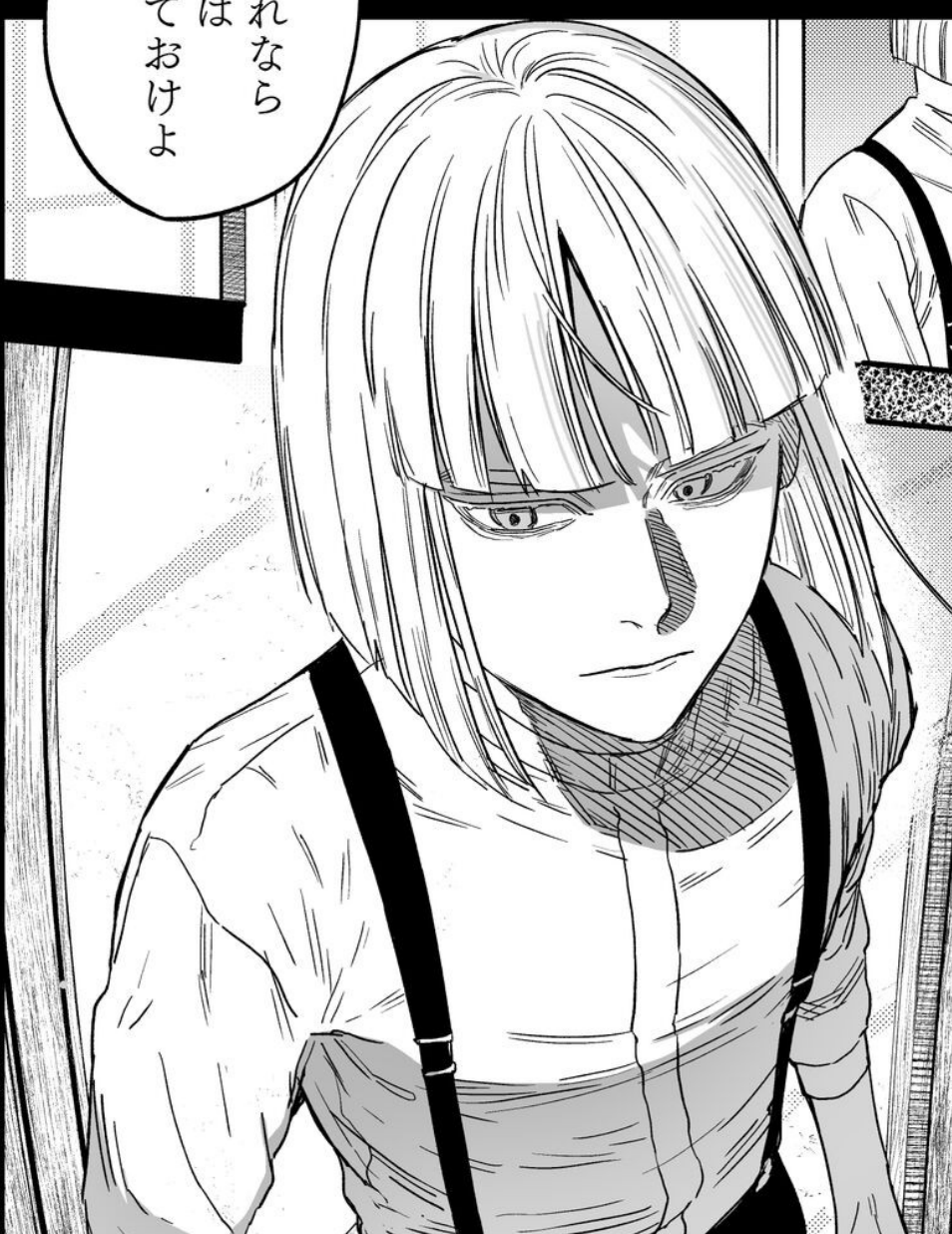




見せに来い



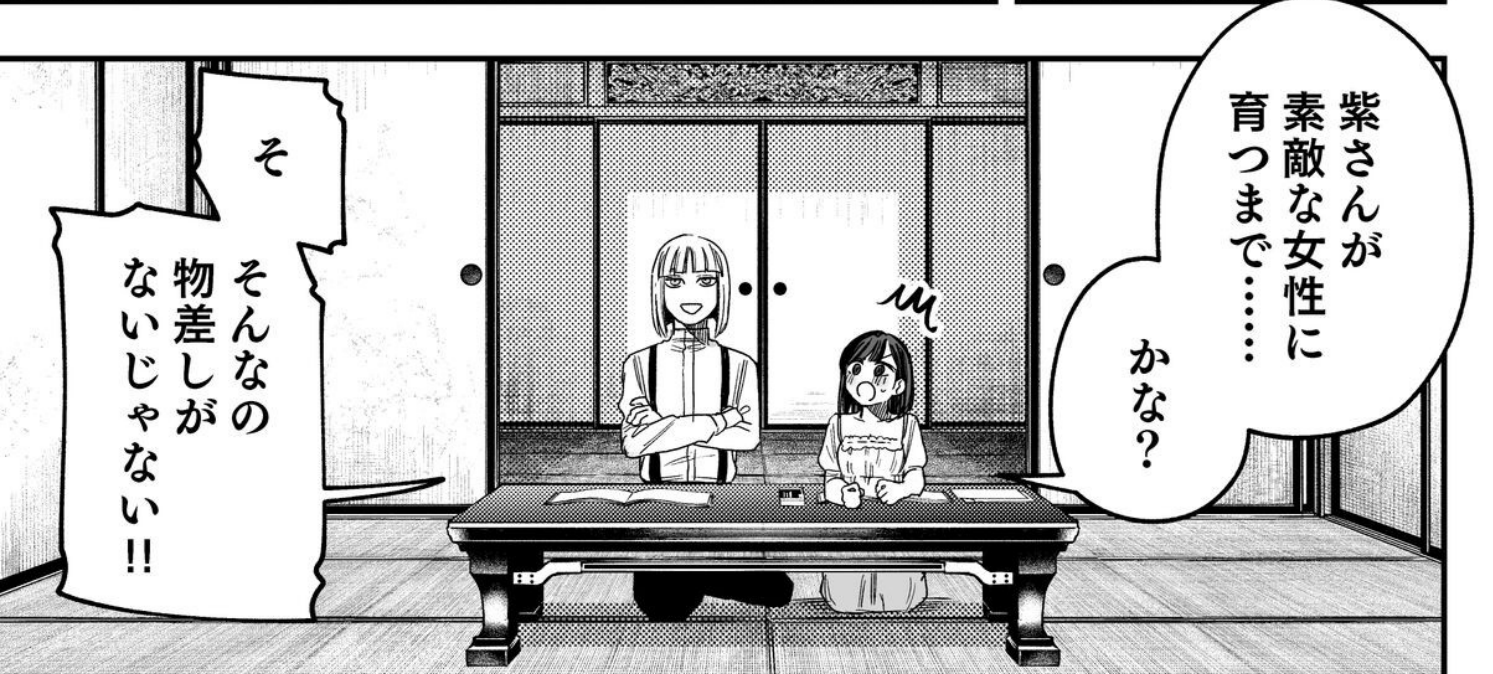
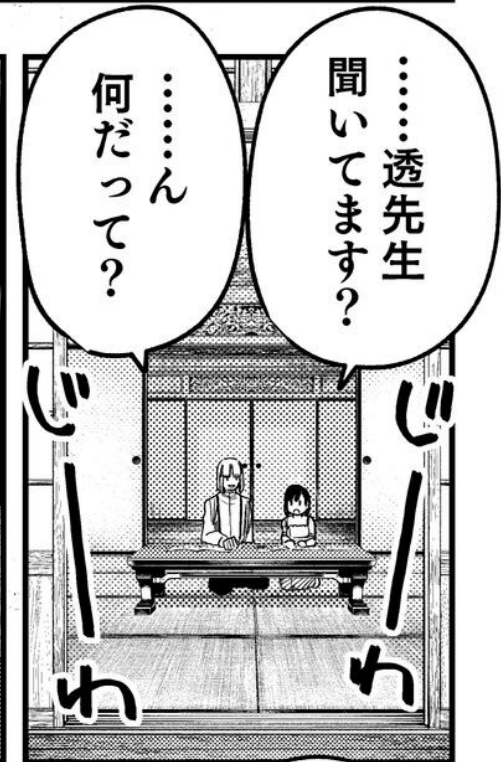
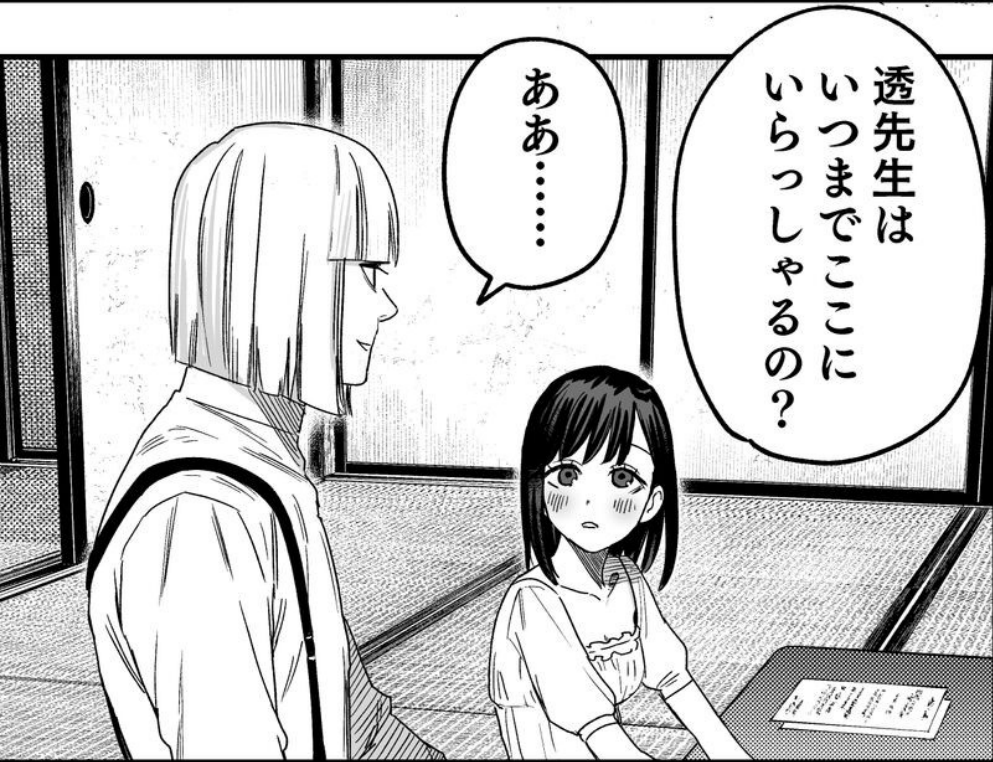
まとまり
ましたね



期待外れなら
その時は
覚悟しておけよ



.....





ふっ



べ別に
私は早く学校へ
行きたいん
ですけどねっ



んじゃ……
ま……
まだ……

んんっ……

当分はうちに
いらっしやるの……



あっ！
笑うなんて
酷いです
透先生！！

だって
あんまり
可愛いから

もう……！！



あとがき

最後までお読み頂きありがとうございます。
今作はかなり性癖ワシワシの話でございました。

歳の差、家庭教師、なんちゃって光源氏計画です。
家という檻の中で透と紫はお互いに光を見出して、
いつかは色んなところへ旅に出れば良いなと思います。

作品を描くにあたってインスピレーションを受けたもの
お話をしておく、今回は某地の高級邸宅街が主になっています。
光源氏計画はエロとストーリーを両立させるにあたって
割と後になってから参考にしたところでした。
三鷹のアニメ美術館はお察しの通りです。

あと真夏にコートを着る
体内温度がどうなってるのかわからないキャラもただの性癖です。

箱庭で生きる純粹培養の女の子も性癖です。

改めて、お読み頂きありがとうございます。
また同人に関してはのんびりのんびりとした活動になりますが
次回も楽しみにして頂けたらと思います。

作品を気に入って頂けた方は、ぜひレビューや評価
Twitter、SNSでのシェアして頂けると嬉しいです(*^-^*)

Mauve/鬼遍かっつえ
Twitter/@Katze_oni



八 — 緑 — 荘

HACHIROKUSOU

家檻と
花厚の
嫁

IEORI TO
KAJOKU NO
YOME

46p

四拾六頁

著

Mauve

※サンプル画像のため
一部再構成しています

それ
で教
年か